

平成 26 年 5 月 16 日

平成 26 年度 「新入社員 意識調査」

足利銀行（頭取 藤澤 智）のシンクタンクである「あしぎん総合研究所」（社長 伊沢 正吉）は、「平成 26 年度新入社員意識調査」を行いましたので、その結果を別紙のとおり発表いたします。今回のポイントは下記のとおりです。

記

<ポイント>

- ◇ アベノミクスによる景気の高揚感がみられる中での就職活動だったが、不安定な世の中で育った新入社員は容易に浮かれず、保守的安定志向に回帰する傾向がみられた。
 - ◇ 17年ぶりに消費税率が引き上げられたこの春、働く目的は「収入を得ること」とした新入社員が目立って増え、そのため「思ったとおりの収入が得られるか」「会社の業績が悪化しないか」不安に感じている新入社員が増加した。
 - ◇ 昨年度調査との比較では、転職せずに「定年まで働きたい」、「平社員のままでいい」という男性が大きく増加。男性の“草食化”が進んでいる。
 - ◇ 女性は「定年まで働きたい」が大きく減少し、「いずれは家庭に入りたい」「平社員のままでいい」が増加。政府が勧める女性の活躍推進との乖離が見られる。
1. 会社を選んだ基準
「自分が働きたい業界・業種」が 65.0%と圧倒的に多く、次いで「通勤に便利など立地条件」33.1%、「会社・上司の雰囲気が良い」が 33.0%となった。
 2. 働く目的
「収入を得ること」が前年より大きく増え 76.2%。次いで「自己の人間性の成長」42.7%、「社会の一員として社会へ貢献するため」33.6%だが、いずれも減少している。
 3. 不安
「仕事についていけるか」が 69.7%と最も多いが、昨年に比べ減少。「上司と同僚など職場の人間関係」「思ったとおりの収入が得られるか」「会社の業績悪化」が増加した。
 4. 勤務・転職等
「定年まで働きたい」が最も多く 52.6%だが、昨年に比べ男性は増加、女性は減少。その分、男性は「ぜひ転職したい」「いずれは転職したい」「ぜひ独立したい」が減少、女性は「いずれは家庭に入りたい」が大きく増えた。
 5. 出世
昨年度と比較すると、男女ともに「平社員のままでいい」が増加。女性は「平社員のままでいい」が 33.3%で最も多くなった一方、部長職以上を目指す回答も増えており、二極化がみられる。

以上

本件に関するお問い合わせ先：(株)あしぎん総合研究所 野内（やない） TEL028-647-5311

平成 26 年度 「新入社員 意識調査」

<ポイント>

- ◇ アベノミクスによる景気の高揚感がみられる中での就職活動だったが、不安定な世の中で育った新入社員は容易に浮かれず、保守的安定志向に回帰する傾向がみられた。
- ◇ 17年ぶりに消費税率が引き上げられたこの春、働く目的は「収入を得ること」とした新入社員が目立って増え、そのため「思ったとおりの収入が得られるか」「会社の業績が悪化しないか」不安に感じている新入社員が増加した。
- ◇ 昨年度調査との比較では、転職せずに「定年まで働きたい」、「平社員のままでいい」という男性が大きく増加。男性の“草食化”が進んでいる。
- ◇ 女性は「定年まで働きたい」が大きく減少し、「いずれは家庭に入りたい」「平社員のままでいい」が増加。政府が勧める女性の活躍推進との乖離が見られる。

1. 会社を選んだ基準

「自分が働きたい業界・業種」が 65.0%と圧倒的に多く、次いで「通勤に便利など立地条件」33.1%、「会社・上司の雰囲気が良い」が 33.0%となった。

2. 働く目的

「収入を得ること」が前年より大きく増え 76.2%。次いで「自己の人間性の成長」42.7%、「社会の一員として社会へ貢献するため」33.6%だが、いずれも減少している。

3. 不安

「仕事についていけるか」が 69.7%と最も多いが、昨年と比べ減少。「上司と同僚など職場の人間関係」「思ったとおりの収入が得られるか」「会社の業績悪化」が増加した。

4. 勤務・転職等

「定年まで働きたい」が最も多く 52.6%だが、昨年と比べ男性は増加、女性は減少。その分、男性は「ぜひ転職したい」「いずれは転職したい」「ぜひ独立したい」が減少、女性は「いずれは家庭に入りたい」が大きく増えた。

5. 出世

昨年度と比較すると、男女ともに「平社員のままでいい」が増加。女性は「平社員のままでいい」が 33.3%で最も多くなった一方、部長職以上を目指す回答も増えており、二極化がみられる。

<調査方法>

- (1) 調査期間 : 平成 26 年 3 月 25 日～4 月 18 日
- (2) 調査対象 : あしぎん新入社員セミナー受講生、新入社員向け出張研修受講生
(セミナー開催回数 栃木県 10 回、群馬県 1 回、埼玉県 1 回、出張研修 4 回)
- (3) 有効回答数 : 689 名 (回答率 99.6%)

内 訳 : 男性 359 名、女性 330 名

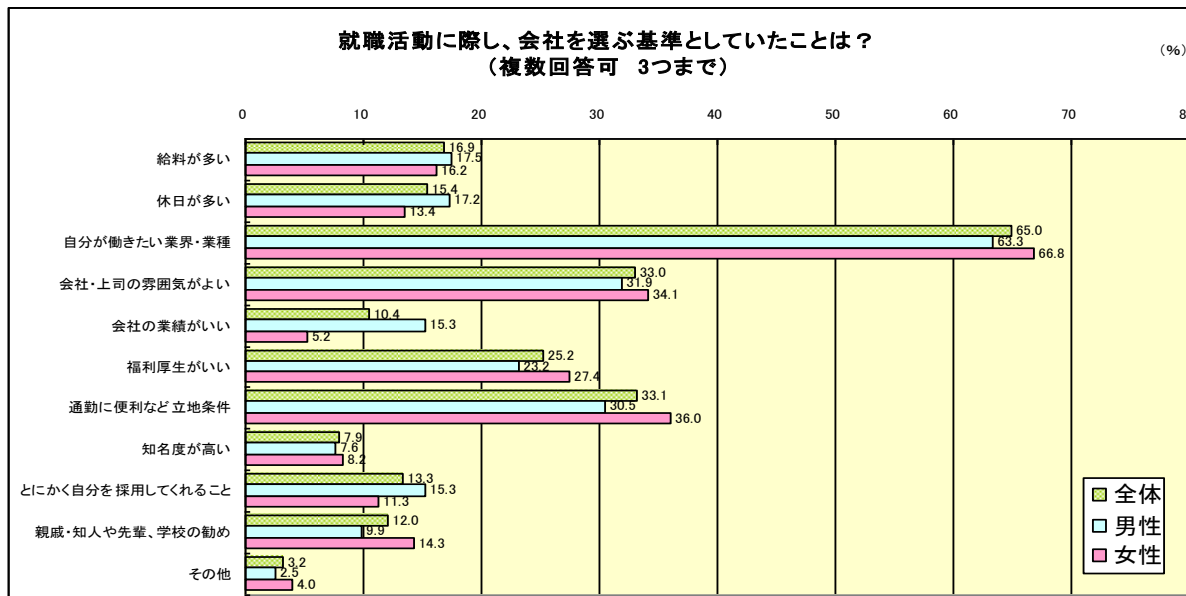
大学・大学院 41.6%、高専・短大・専門学校 15.6%

高校 23.9%、中途採用、その他 18.9%

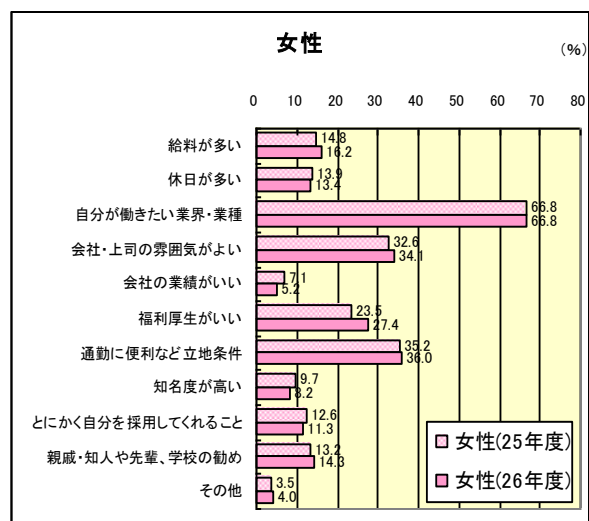
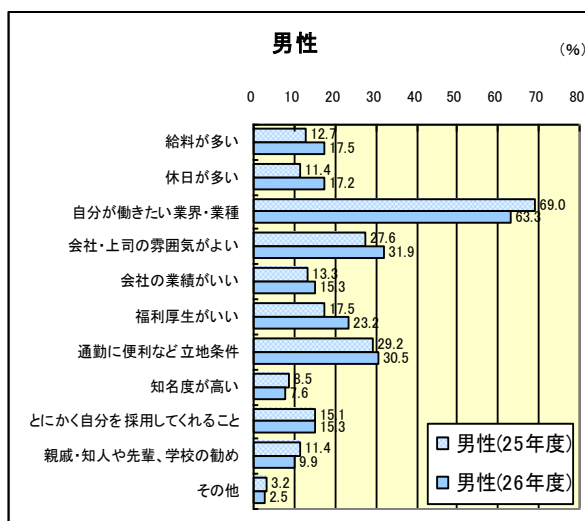
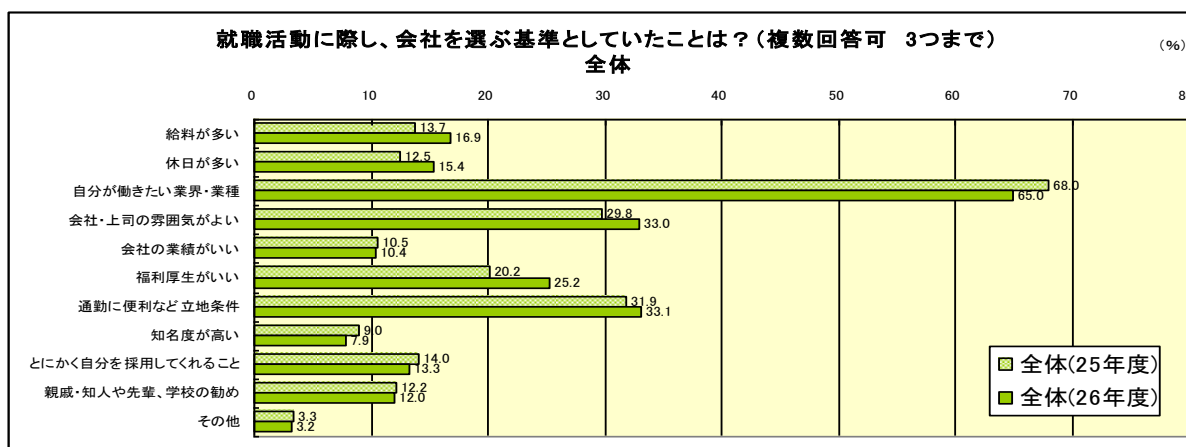
1. 就職活動に際し、会社を選ぶ基準としていたことは？

「自分が働きたい業界・業種」が65.0%と圧倒的に多く、次いで「通勤に便利など立地条件」33.1%、「会社・上司の雰囲気が良い」33.0%となった。昨年に比べやや減ったものの、会社選定の大きな前提が「興味ある業界・業種かどうか」である点は変わらない。

男女別で差がみられたのは「通勤に便利などの立地条件」「親戚・知人や先輩、学校の勧め」が女性で多く、「会社の業績が良い」「とにかく自分を採用してくれること」が男性で多かった。

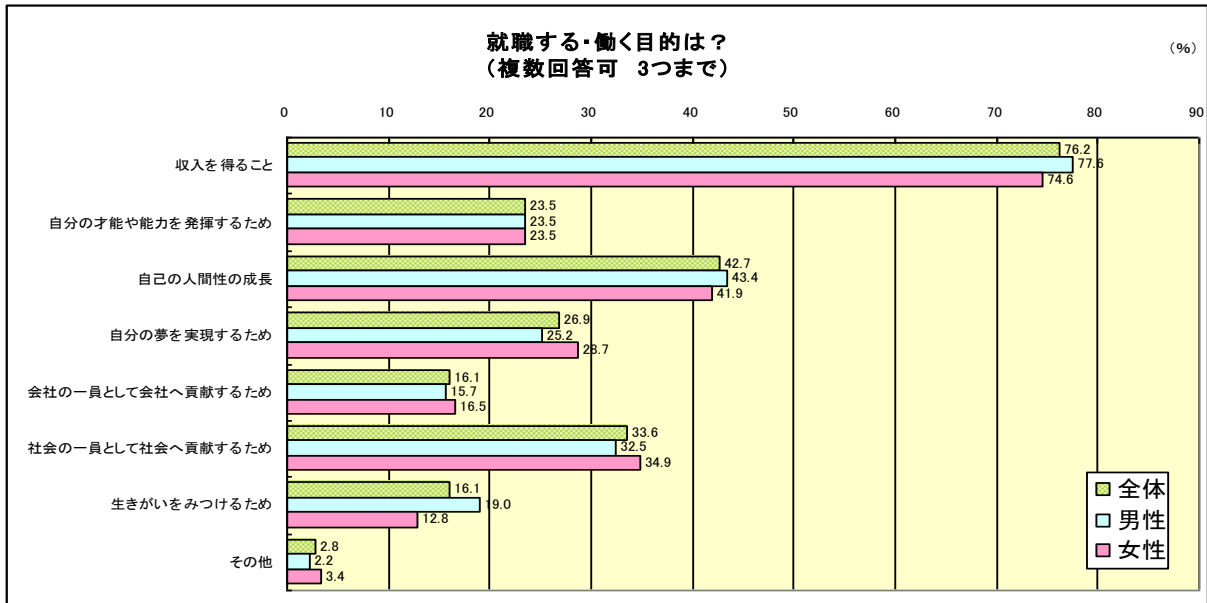


昨年度の調査との比較では「福利厚生が良い」「給料が多い」等が増加した。

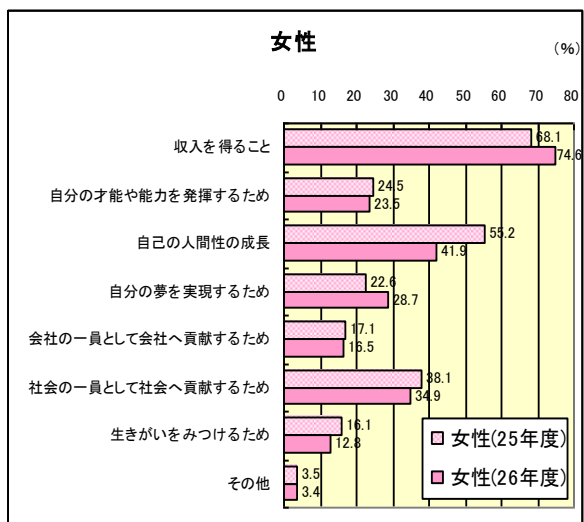
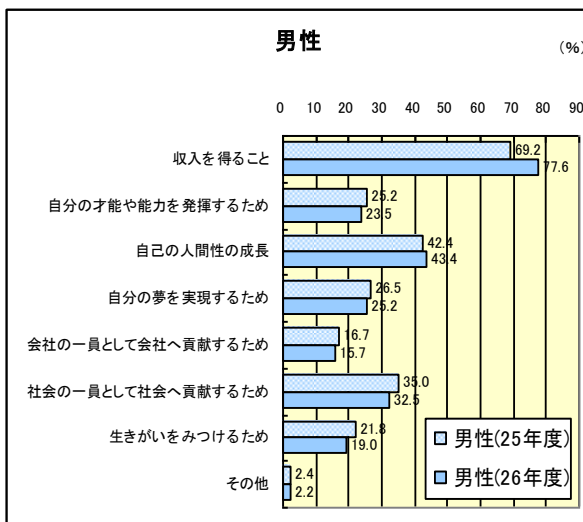
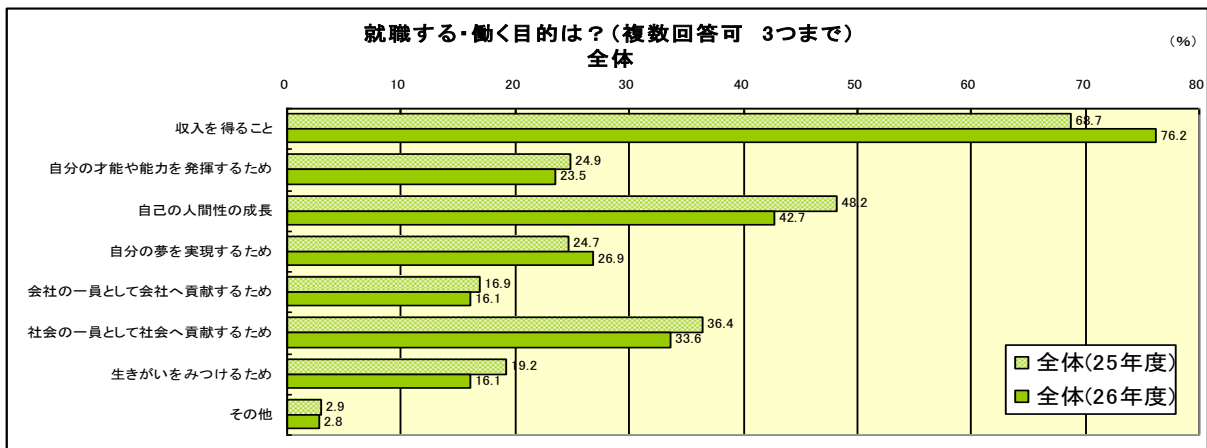


2. 就職する・働く目的は？

例年最も多い「収入を得ること」がさらに増え76.2%となった。次いで「自己の人間性の成長」42.7%、「社会の一員として社会へ貢献するため」33.6%の順となったものの、いずれも昨年を下回っている。



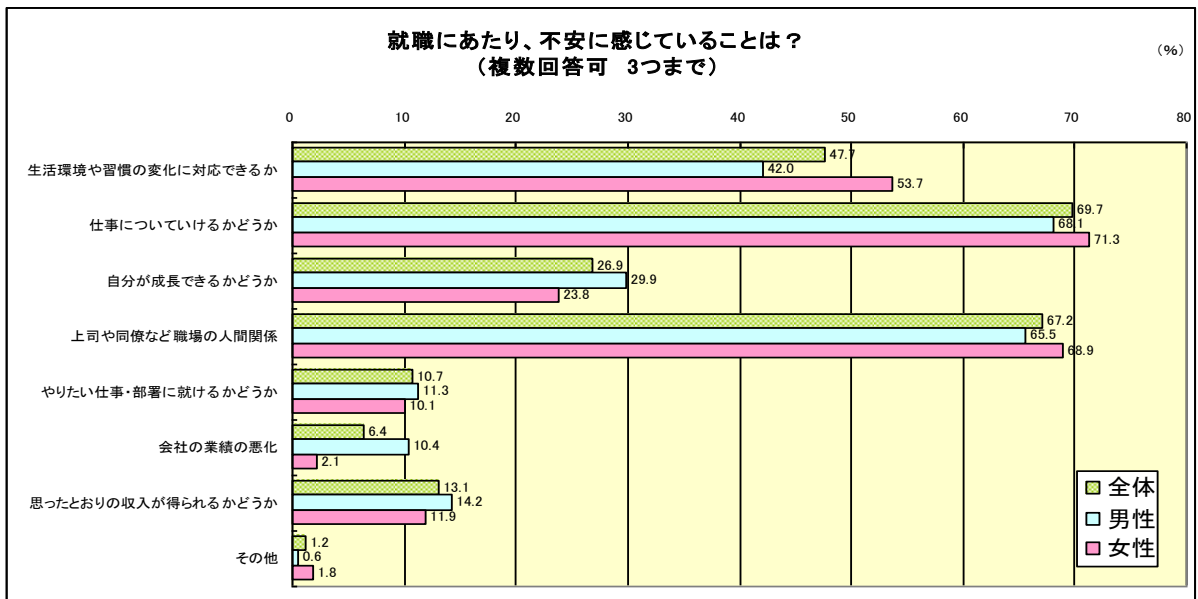
男女別で差がみられたのは「自分の夢を実現するため」「社会の一員として社会へ貢献するため」で女性の回答が多く、「生きがいを見つけるため」「収入を得ること」で男性の回答が多い。



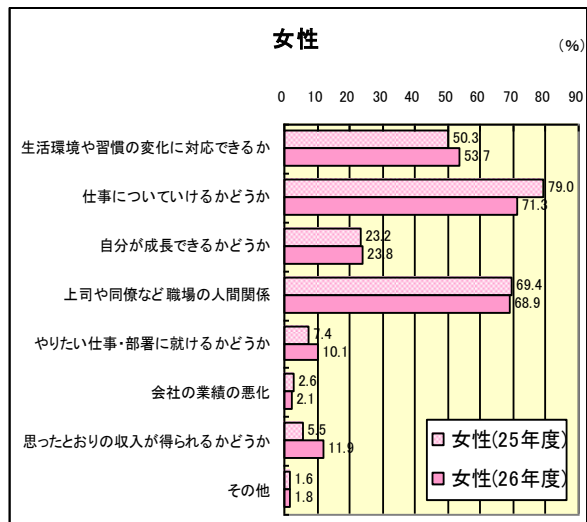
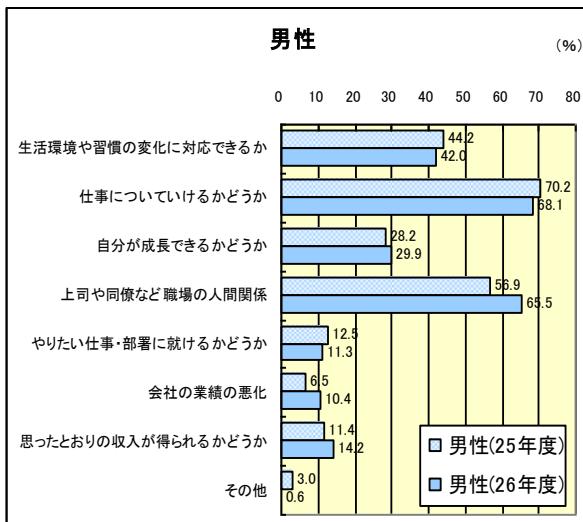
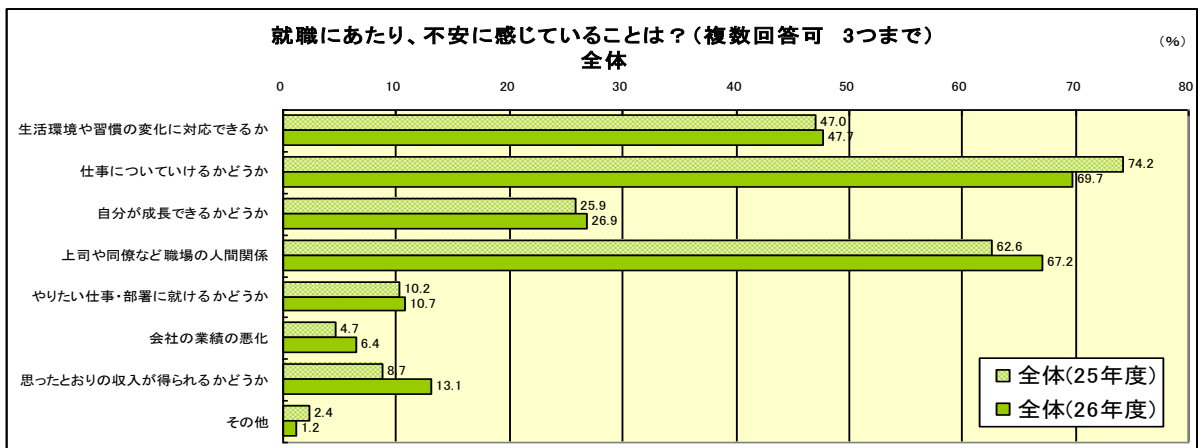
3. 就職にあたり、不安に感じていることは？

「仕事についていけるかどうか」が69.7%と最も多い。次いで多かったのは「上司や同僚など職場の人間関係」が67.2%、「生活環境や習慣の変化に対応できるか」47.7%となった。

昨年度調査と比較すると「仕事についていけるかどうか」が減少。「上司と同僚など職場の人間関係」「思ったとおりの収入が得られるかどうか」「会社の業績の悪化」が増加した。

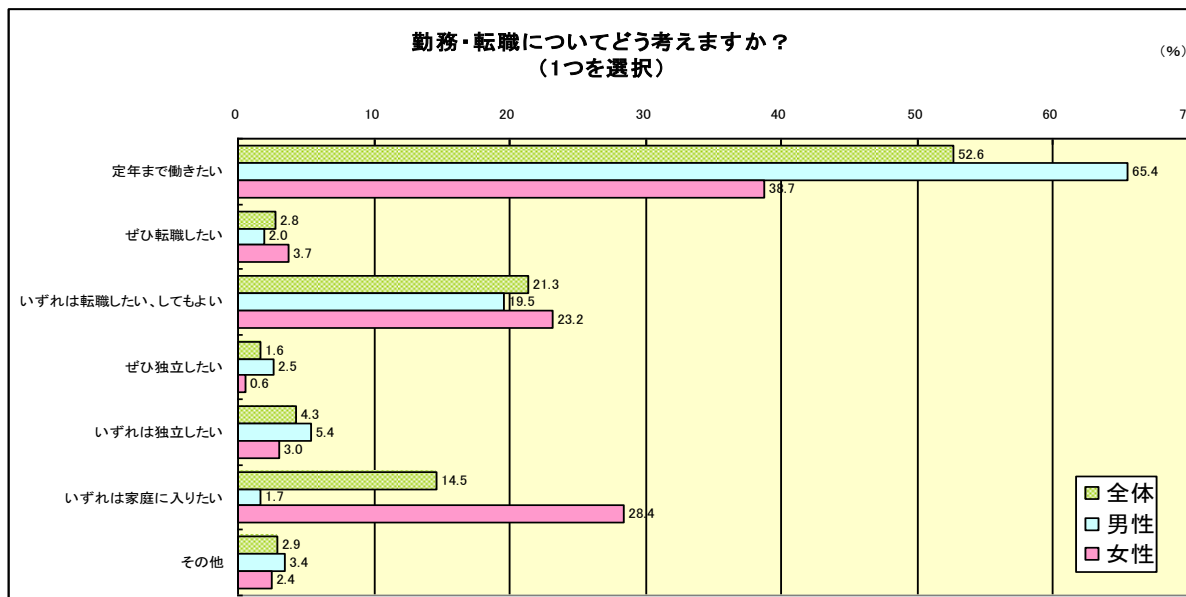


特に男性は「上司や同僚など職場の人間関係」、女性では「思ったとおりの収入が得られるかどうか」が増えており、各項目で男女の差がなくなりつつある。

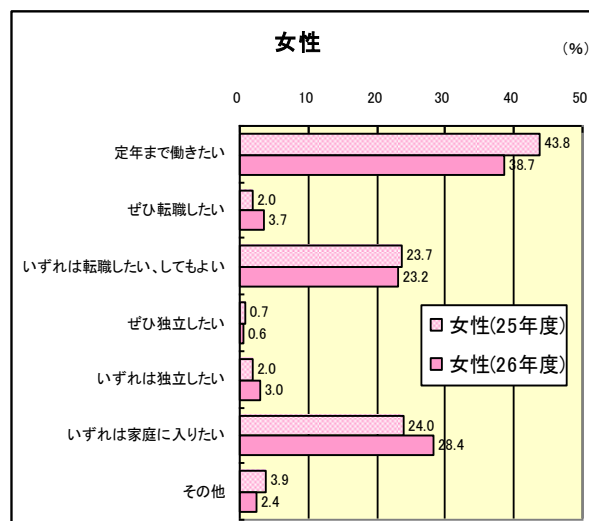
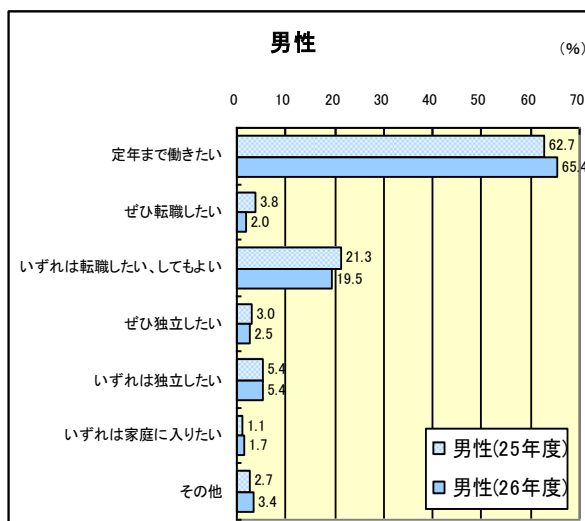
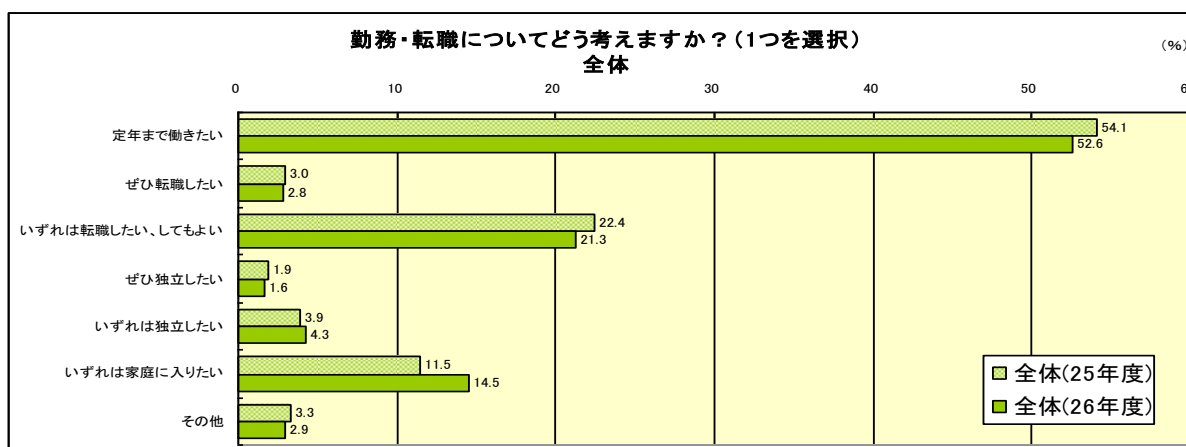


4. 勤務・転職等についてどう考えるか？

男性は、例年最も多い「定年まで働きたい」がさらに増え 65.4%となった一方、「いずれは転職したい、してもよい」「ぜひ転職したい」「ぜひ独立したい」が減少。保守的傾向が強まった。

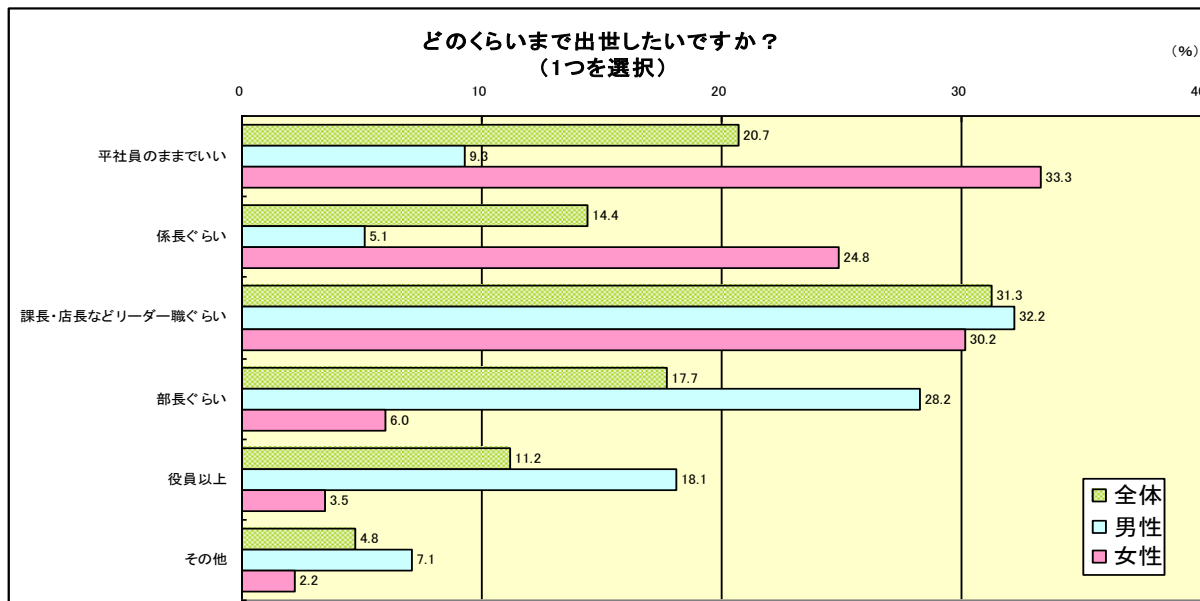


女性も男性同様に「定年まで働きたい」が最も多く 38.7%だが、昨年度との比較では男性とは逆に目立って減少しており、替わって「いずれは家庭に入りたい」が大きく増え 28.4%となった。

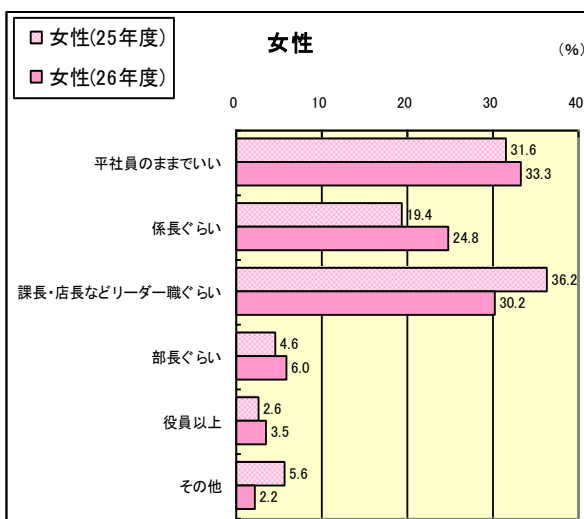
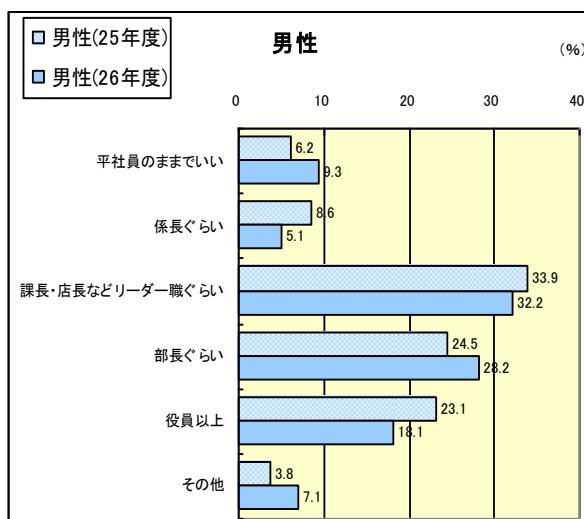
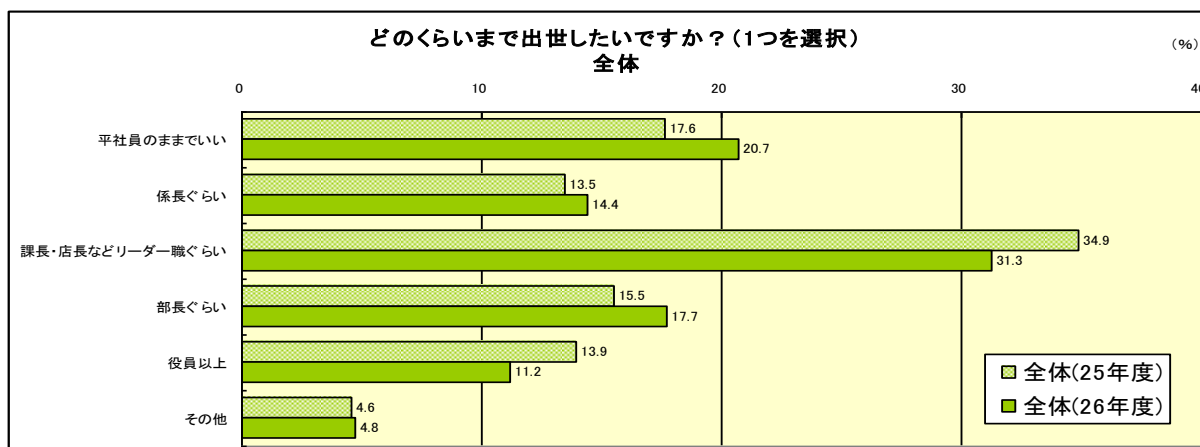


5. どのくらいまで出世したいか？

例年どおり男女差が大きい。より上席になるほど男性の回答が増え、課長・店長等のリーダー職以上を目指す男性は78.5%、女性は39.7%となった。昨年度調査と比較すると、男女ともに「平社員のままでいい」が大きく増加した。

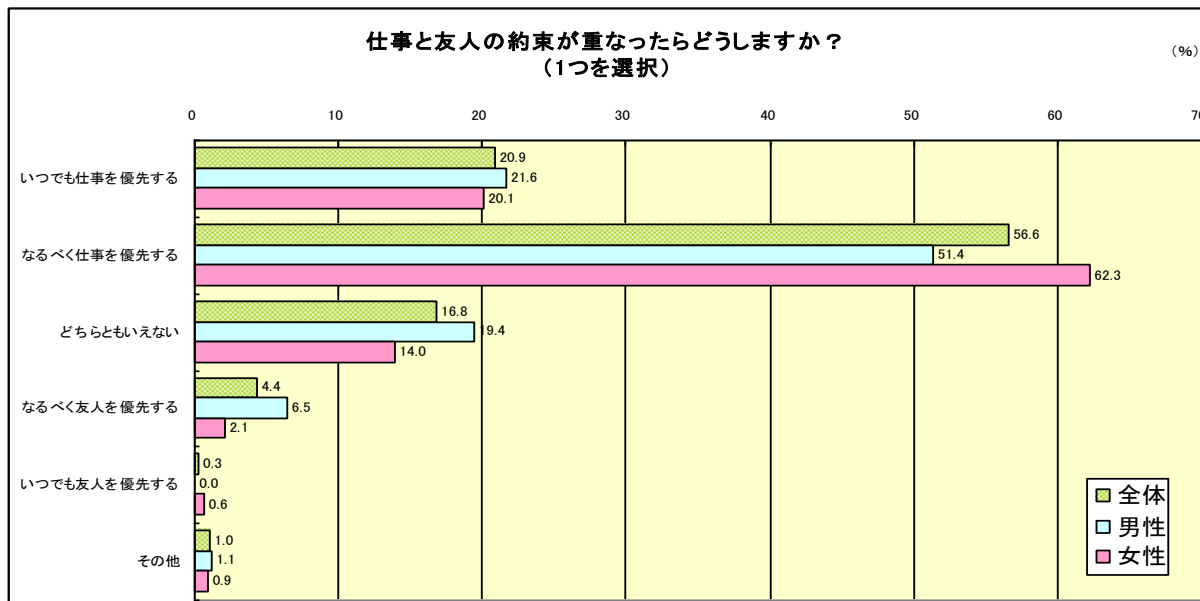


内訳をみると、男性は「平社員のままでいい」が増えた分、「役員以上」を目指す回答が目立って減った。女性は「平社員のままでいい」が増えたが、一方、部長職以上を目指す回答も増え9.5%となり、二極化がみられる。

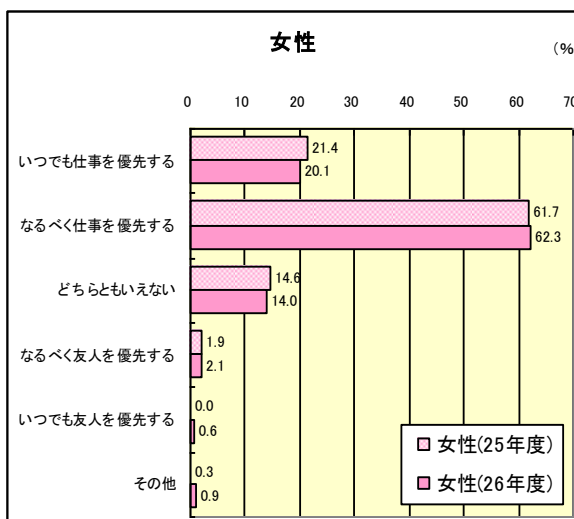
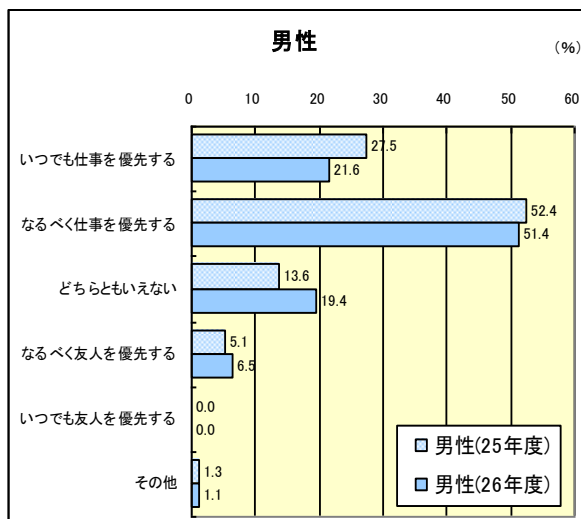
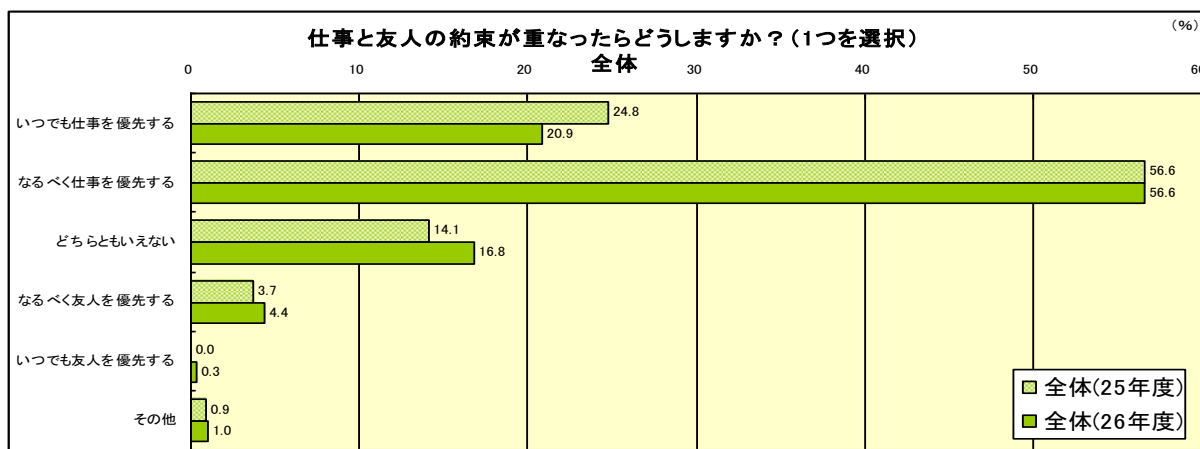


6. 仕事（残業など）と友人の約束（食事や飲み会など）が重なったらどうするか？

「なるべく仕事を優先する」が56.6%と最も多く、次いで「いつでも仕事を優先する」が20.9%となった。合計すると77.5%となり、友人の約束よりも「仕事を優先」派が多い。



ただし、昨年度調査と比較すると、「いつでも仕事を優先する」は大きく減少し、「どちらともいえない」と答える慎重派の男性が増加。「なるべく友人を優先する」「いつでも友人を優先する」というプライベート重視派もわずかに増えている。



7. あなたが今、興味のあるもの、関心の高いものは何か？

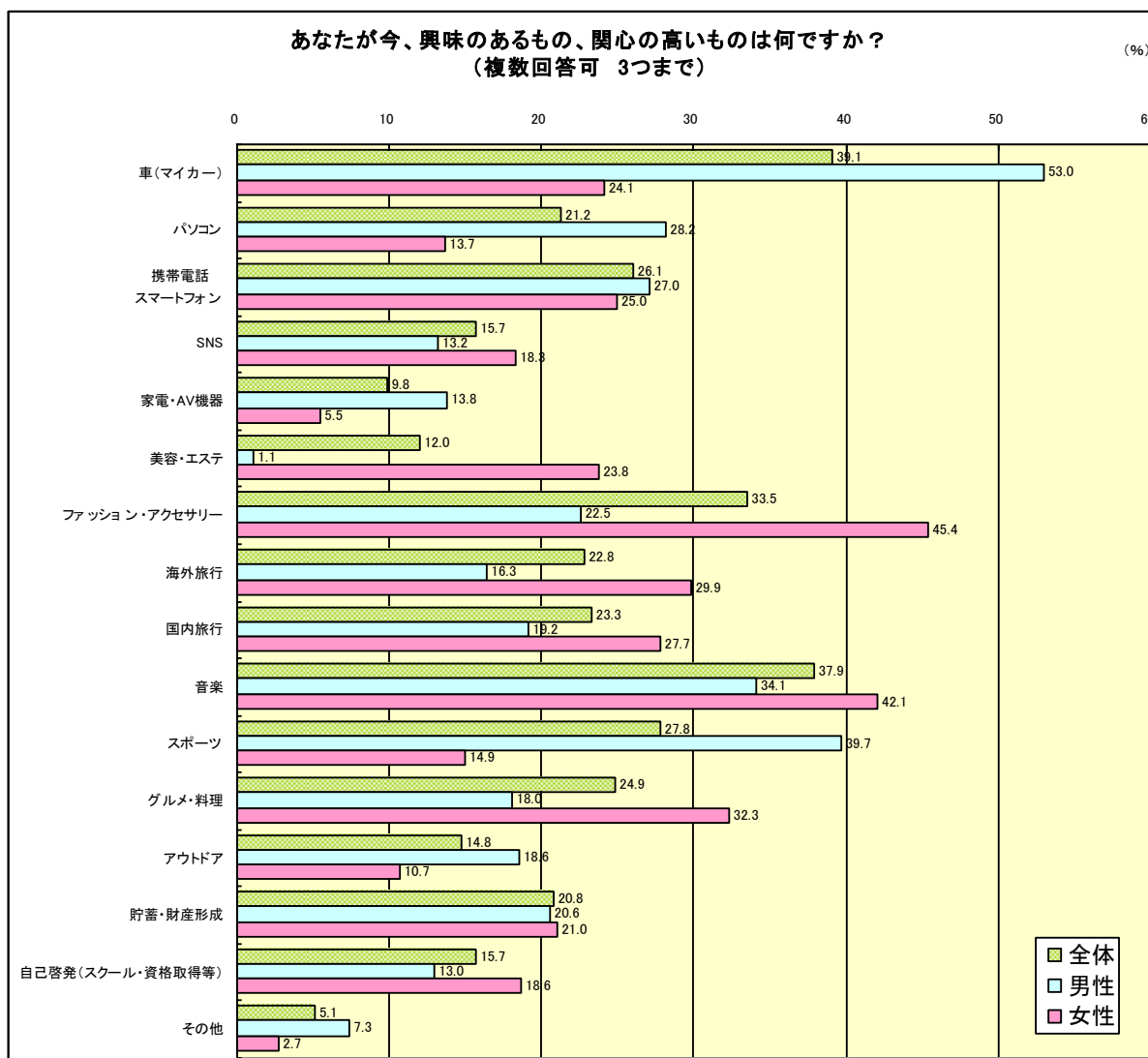
この項目では、男女の回答に大きな開きが見られた。

<男性>

- ①車（マイカー） 53.0%
- ②スポーツ 39.7%
- ③音楽 34.1%
- ④パソコン 28.2%
- ⑤携帯電話・スマートフォン 27.0%

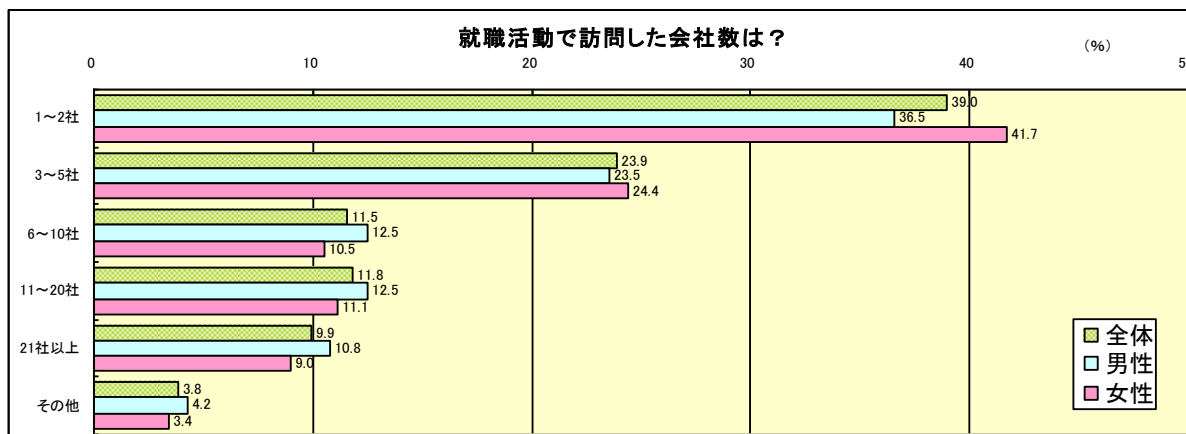
<女性>

- ①ファッション・アクセサリ 45.4%
- ②音楽 42.1%
- ③グルメ・料理 32.3%
- ④海外旅行 29.9%
- ⑤国内旅行 27.7%

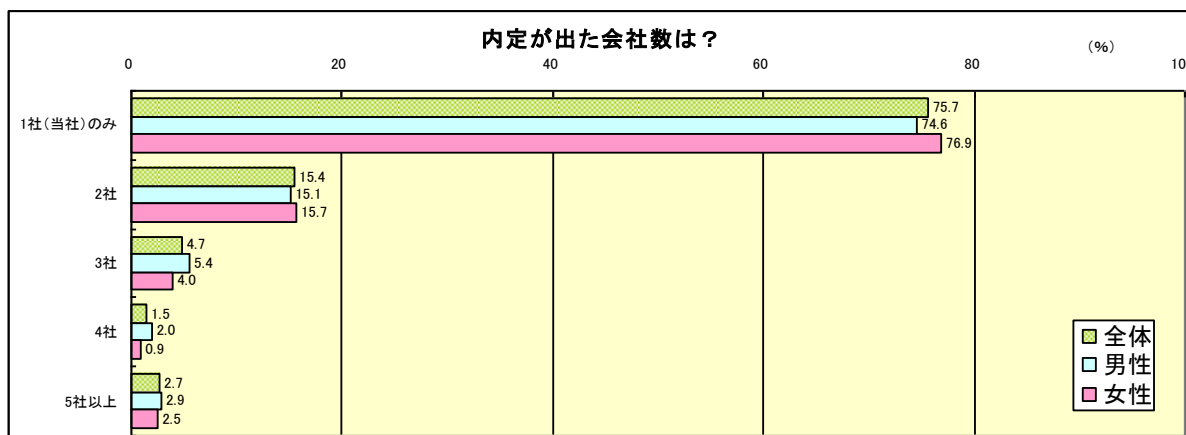


8. 新卒者の就職活動の状況について

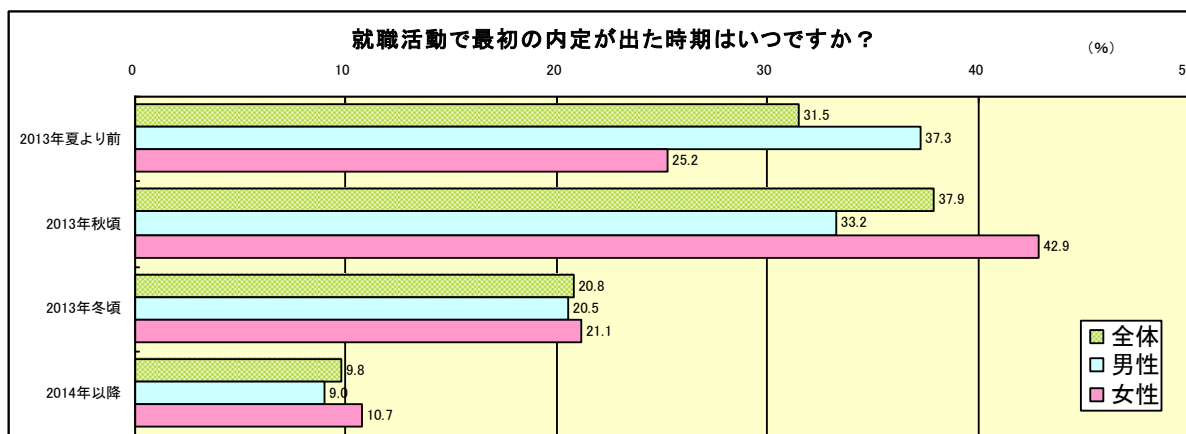
(1) 新卒者の訪問企業数（会社説明会を含む）は、「1～2社」が39.0%と最も多い。女性に比べ苦戦した男性が多く、6社以上訪問した男性は35.8%に上る。



(2) 内定企業数は「1社（当社のみ）」が圧倒的に多く、厳しい就職戦線を反映した。



(3) 内定が最初にでた時期は、「2013年秋頃」が最も多かったが、「2013年冬頃」「2014年以降」の回答も比較的多く、就職活動が長引いたことを裏付けた。男性は「2013年夏より前」、女性は「2013年秋頃」が最も多く、男性の方が早く決まる傾向にある。



以上